

【高等学校用】

令和2年度学校評価 結果

様式1(高等学校)

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立唐津青翔高等学校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	自律精神の育成の面では、欠席、遅刻の増加が目立った。多様な問題を抱える本校生徒に対し、教職員との信頼関係を構築し根気強く指導することやスクールカウンセラーを有効に活用することで、いじめ問題の未然防止・早期解決を含め、問題解決につなげたい。基礎学力の定着については、青翔タイムの活用や週末課題等で学力の向上を図ってきたが、十分な成果が得られていない。少人数指導におけるきめ細やかな指導を継続しつつ指導法の改善など教師の指導力の向上が求められる。キャリア教育は学年ごとに充実しており、進路指導においても面接指導を中心に全職員が協力しきめ細やかな指導を行う体制が確立できている。各系列の授業が進路選択やキャリア教育の推進につながるよう今後も工夫を重ねるとともに、生徒が主体的に目標に取り組む進路指導を実践していきたい。地域連携では、小学校との交流、介護実習やインターンシップ、商品開発や釜山外国語大学との交流、名護屋城博物館等での校外学習などの教育活動を実践した。広報・情宣活動の充実が課題であり、次年度は積極的に展開していきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	「確かな学力と豊かな心、健やかな身体を育み、自主と自立の精神を養い、高い志を持って地域社会に貢献する人材を育成する。」 校訓『自律・挑戦・感謝』の精神で心と体を成長させ、大空(社会)に羽ばたいていく生徒を育成する。
----------	--

3 本年度の重点目標	学校スローガン『青翔魂! 昨日の自分を超えていけ!』を合言葉に、 ①地域に愛され、地域に信頼される。 ②志を持ち、夢の実現のためにベストを尽くす。 ③失敗を恐れずチャレンジする。 ④自分と他人を愛する。 ⑤綺麗で安心な学校をみんなで作る。 を、生徒と教師がともに目指し、元気で明るい学校をつくる。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	
	取組内容	成果指標(数値目標)						
●学力の向上	○基礎学力の定着と個に応じた指導	○生徒が自信を持って社会に出るため、基礎学力の定着を図る。 ○追認指導を受ける生徒数を昨年度より減らす。 ○未修得者の割合を10%未満にする。	・朝の青翔タイム(学び直しの時間)や調査前の補習の時間を使い、生徒の現状、個に応じた教科別の指導を行う。 ・調査後に授業や調査に対する振り返りを行い、生徒の現状を把握し、今後の日々の授業への取り組みにいかしていく。	C	・朝の青翔タイムで学年、クラスで様々な取り組みが行われているが、落ち着いた雰囲気が出ていない状況も見受けられる。 ・追認指導の対象生徒は昨年度とあまり変わらないが、各教科で生徒の現状に対応した取り組みを行っている。対象生徒は、全体の16%である。	C	・朝の時間は、前期よりスムーズに青翔タイムを始めている。しかし、クラスによっては終始落ち着かない雰囲気もあるので、教務としてのフォローができていない。 ・追認指導の数は昨年度より増加している。(例3年生 昨年6名、今年16名)また、生徒の意識が、欠点回避の手段として考えているため、教師側との考えの違いで困難な面がある。	教務
	○ICT利活用教育の実施	○社会に貢献する人材の基礎となる能力の育成のため、1年次生の日情報ワープロ検定4級の合格率を50%以上にする。 ○生徒に合った教材作成に向け、職員のICTに関する基本的なスキルアップを図り、ICTを利用した自主製作教材を15件以上にする。	・「社会と情報」の授業等を活用して、タイピングを練習する機会を設ける。 ・校内研修等で、教材作成に関する基本的なスキルを伝えていく。また、ICT支援員と協力しながら、職員の教材作成をバックアップしていく。	B	・コロナウイルスの影響により、授業時数が減ったものの、平均300字程度を記録している。検定の合格基準500字に向けて継続し取り組んでいる。 ・推進リーダーのもと、校内研修を行い、職員のICTに関するスキルアップを図っている。自主製作教材は10月現在で47件であった。	A	・1年次生の日情報ワープロ検定取得率については、2月22日(月)実施のため結果は出ていないが、練習時に合格基準を超えている生徒は34名と全体の58.6%である(授業時に測定)。 ・自主製作教材に関しては、47件を超えており、目標値を大幅に上回った。	ICT推進
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートで「豊かな心を身に付ける教育活動が行われている」と回答する割合を80%以上(生徒・保護者・職員で)にする。	・HR活動などで、道徳心を養うような講話やDVDなどを用い、生徒に分かりやすい指導方法を考えていく。 ・教師側がしっかりと知識と共通理解を持って生徒へ対応するため、研修会を設け指導力を高める。	C	・コロナウイルスの影響などにより、豊かな心を身に付けるためのHR活動の時間が確保できず、生徒に十分な対応ができていない。 ・日々の生徒対応や業務が多忙なため、研修などを設ける機会ができていない。	B	・コロナ禍で行事等が変更や削減を余儀なくされたが、リモートなどのできる限り講演会等の行事を設けることができた。 ・日々の業務をこなすことで精一杯の面もあり、計画的な研修の機会が設けられていない。	教務(道徳教育等)
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめの早期発見に努め、「いじめを許さない」「いじめを見逃さない」学校づくりが行われている」と回答した教員が90%以上にする。	・年に3回以上、学校生活アンケートを実施して、いじめの早期発見に努める。 ・全校集会や担任等を通して、いじめ問題やSNS・ライン等の適切な利用について指導する。	C	・2回目の学校生活アンケートについては、早急に実施し、いじめの早期発見に努めた。 ・いじめなどの問題について注意喚起しているが、さまざまな問題が発生している。	C	・年3回の学校生活アンケートを実施したり、巡回指導を実施していたが、いじめを早期に発見できない例もあった。 ・「いじめを許さない」「いじめを見逃さない」学校づくりが行われていると回答した教員は80.6%で、数値目標に達することができなかった。 ・12月にいじめの対応について、校内研修を行い対応を確認することができた。	生徒指導部
	○自己肯定感の醸成	○学校評価アンケートで「部活動や生徒会活動など活発である」と回答する生徒を80%以上にする。	・3年生引退後、部活動体験入部の期間を設けて新入部員を再度募集し、部活動加入率を上げる。 ・毎月、各部活動の試合や大会の日程をホールに掲示し、全校生徒の目に触れるようにする。入賞した場合は全校表彰をする。	・SSP杯の壮行会を全校生徒で行えたことはよかった。新型コロナウイルスの影響で部活動の大会が少なく、部活動加入率を上げる試みも出来なかった。 ・試合の予定は職員の朝礼連絡に掲載し、生徒への声かけに利用してもらった。 ・7月と9月にリモートによる集会で、入賞者(部)への全校表彰を行った。	C	・本校生徒はバス通学が多いため、間に合わせるために朝食を抜いたり、お菓子などで済ませる傾向がある。休校等の影響で指導時間がずれ込みまだ十分ではない。朝食に関するアンケートは12月に実施予定である。	B	・感染症対策のために例年と異なる準備が必要だったが、文化祭体育祭ともにほぼ例年通りの内容で実施できた。 ・学校祭以後は後期クラスマッチの中止により生徒会の活動が停滞した。2回のアンケート結果は「部活動や生徒会活動が活発」と回答する生徒が約75%で変化なかった。清掃活動や挨拶運動などコロナ禍でもできる活動を工夫すべきだった。 ・部活動加入率は約50%で、来年度は加入率を上げるような手立てを生徒会で行ってほしい。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒を育成していきにあたり、朝食をきちんととっている生徒の割合を80%以上にする。	・保健だよりや食育だより、青翔ニュースなどをとおして、食育を推進し、生徒・保護者の意識を高める。	C		C	・コロナ禍の中で自宅過ごすことも多かった生徒の中には料理に興味を持ち、自分で作るという経験をした生徒の話を期すことが出来た。 ・朝食について毎日摂取している生徒は5月の48%から2月の60%に増加した。 ・健康に食事は大切であるとする生徒についても95.8%から99%へわずかながら増加した。	保健部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・各担当分掌や係で業務や会議の縮減を図る。 ・定時退勤日を確実に実践し、職員一人一人が日常業務におけるタイムマネジメントを行い、業務改善の意識を高める。	B	・時間外勤務時間が規定を超える職員は少ないものの、確実な定時退勤日の実施と会議や行事の縮減はできていない。	B	・全職員の時間外勤務時間は月平均35時間で昨年より6時間程減少した。年間5日以上休職取得は全職員の74%であった。また、部活動の休養日の週2日以上は設定は99%の達成であった。 ・定時退勤日が十分に実施できていない。特定の職員の長時間勤務がみられ、業務の平準化が課題である。	教頭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	
	取組内容	成果指標(数値目標)						
○キャリア教育・進路指導	◎キャリア教育・進路指導の充実	○1、2年生は、キャリア教育に関する年度末の調査で「働くことの意義について考えることができた」と回答する生徒の割合を80%以上とする。 ○3年生は、進路決定率を100%とする。	・「キャリア教育支援事業」や地域の力を活用し、総合学科に特化した内容を実施する。 ・進路希望や進路適性について、早期に職員間での情報共有を行い、進路ガイダンスなどで生徒の進路意識を高める。	C	・キャリア教育支援事業は商業、福祉、理科で実施もしくは今後実施される。それを踏まえ、年度末にアンケート調査を実施する。 ・3年生の進路決定状況は60%程度である。引き続き学年職員とともに指導を行っていく。	B	・新型コロナウイルスの影響で外部講師を呼んでの実習や校外活動を行うことができなかったが、生徒へのアンケート結果は82%を達成できた。 ・3年生の進路決定状況は93%であり、目標に達していなかった。引き続き指導を行っていく。	進路指導部
○開かれた学校づくり	○地域との連携(地域と連携した教育活動と広報活動の充実)	○商品開発や介護実習などを更に充実させ、広報に努め、イメージアップを目指す。生徒が地域のニーズを学び、地域のために活動する経験を3年間で100%にする。	・商品開発など既存の活動をメディアにPRするシステムを構築する。 ・地域のニーズを学び、地域のために活動したことを総合学科発表会で発表する。	B	・コロナウイルスの影響で販売実習などが十分に行えない状況であるが、唐津Qサバ料理コンテストに出場し、唐津びーぶで放送してもらった。 ・各系列の取り組みをBWプロジェクトで共有できた。	B	・各系列の取り組みにより、メディアに取り上げてもらう機会は増え、BWプロジェクトを通じてPRするシステムができた。 ・コロナ感染防止の観点から、外部との接触が制限され、地域のために活動することができなかった。青翔ニュースは、企画も充実し、計画的に発行できた。	総合学科 図書部(広報)
○環境整備と美化	○綺麗で安心な環境づくり	○校内が快適な環境となるよう整備点検に努め、ゴミの持ち帰りや分別をはじめ校内環境美化や整理整頓に取り組んだ生徒の割合を80%以上にする。	・定期安全点検を隔月で実施する。 ・さわやか清掃活動(校内外ボランティア活動)を前・後期1回実施する。	C	・ゴミの持ち帰りや分別をはじめ校内環境美化や整理整頓に取り組んだ生徒の割合は63.8%と目標に及ばなかった。 ・さわやか清掃活動は校外ボランティアの割合を拡充し、生徒も熱心に取り組んでくれた。	C	・定期的な安全点検を実施し、危険箇所や破損箇所の把握に努め、迅速な対応へつないだ。 ・校内美化や整理整頓に取り組んだ生徒の割合は60.7%と目標に及ばなかったことを受け、教室環境のUD化に整理整頓の支援に関わる項目を追加し全クラスで取り組んでいく。	保健部

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・コロナ禍で活動が制限される中、十分な対策を検討したりリモートで実施したりして、従来の行事や活動と変わらない教育効果をあげることができた。 ・地域連携についてもBWプロジェクトを中心に、できる範囲内で必要な教育活動と広報活動ができた。来年度以降も引き続き、地域連携の充実を図り、生徒の自己肯定感の醸成とキャリア教育の充実につなげていく必要がある。 ・授業でのICT利活用とリモートによる集会の実施などICT機器を利用する頻度はかなり増えているが、今後、臨時休校になった際のオンライン授業が適切に実施できるか課題が残る。 ・本校生徒の特性を十分に踏まえ、基礎学力の向上、規律やマナーに関する生徒指導(校内美化を含む)について、職員の共通理解を図り、強化していく。また、いじめの早期発見・早期対応のため情報共有など職員の意見交換の場を適切に設ける必要がある。 ・追認指導の在り方などを検討し、業務の削減と会議の縮減、実効性のある定時退勤日の実施など時間外勤務の減少につながる方策を実行していく。
--------------------	---